

令和5年度第2回岐阜県食育推進会議 議事要旨

- 1 日 時 令和5年10月31日(火)10:00~11:30
2 会 場 シンクタンク庁舎 5階大会議室
3 出席者 岐阜県食育推進会議委員 18名(別添名簿のとおり)
東海農政局消費・安全部消費生活課、農政部農産物流通課、
教育委員会体育健康課、健康福祉部保健医療課

4 議事内容

岐阜県食育推進基本計画(素案)について

(1)第4次計画の主な変更点と計画(素案)について

(2)第4次計画策定スケジュールについて

5 主な協議事項

第4次岐阜県食育推進基本計画(素案)についての意見

第4次岐阜県食育推進基本計画(素案)を踏まえ各団体に目標達成のために今後さらに推進していくことができる取組みなど

【第4次岐阜県食育推進基本計画(素案)についての意見】

- ・子ども、青年期、高齢者と誰一人取り残さないということが重要である。
- ・第4次計画において重点世代として「青年期」を明記していただいたことはありがたいし、大事な点だと理解している。
- ・計画素案のP23(イ)に青年期における食育の推進の主な事業例に「高校生等の食生活の実態調査」とあるが、ぜひ大学の健康診断を利用して大学生の食生活等実態調査を実施していただくとうい。大学としても全面的に協力したい。
- ・「大学と協働した食育普及活動」の「協働」は重要なキーワードだと思う。若い女性のやせは子宮頸がんワクチンの啓発をする世代でもあり、この部分に協働がある。人間力の教育と食育、生涯を通して食育が繋がる。まさに協働という場面が出てくる。そして国際化といった場面で食育の視点をいれる、いろんな形で協力ができると考えている。
- ・基本計画に示された学校教育に関わる部分については大いに賛同できる。今回の計画は、うまく落としどころを決め、必要なところに絞って作成されていると感じる。ただ、実践となると、例えば朝食欠食の割合は1次計画時から3次まで連続して目標設定がなされているものの、いずれも達成できていない現状がある。ここにどう手を打つかを明確にしていきたい。朝食の改善を図ろうとする場合、保護者の意識や経済状況などにも配慮が必要になると考える。
- ・食育は心の教育、体の栄養と心の栄養を考えること。食育の計画は「豊かな人間形成」とある。体だけでなく、心の形成ということも食育を通して考えていかなければならない。
- ・目標の「野菜の摂取量を増やす」について、物価高騰により野菜も非常に高い状態で推移している中、厳しい家庭の事情があり、非常に厳しいと感じる。特にエネルギーコストに係る補助がないと中小企業は厳しいと思うため、検討していただきたい。

・計画に「持続可能な食を支える食育の推進」というところが、食料安全保障というところにリンクする。健全な食生活を送るためにも、基盤として生産者の活動が食育を通じて支えていただけるようなところが盛り込まれており、大変ありがたいと思う。

・計画素案に、食生活改善推進員という言葉を入れていただいたことがうれしい。

・計画の中に「誰ひとり取り残さず」ということで、いろいろなお職域の栄養士と連携していくことの大切さをすごく感じた。計画の中に明記されていることがよいと思った。

【各団体で目標達成のために今後さらに推進していくことができる取組みなど】

・オーラルフレイル対策に力を入れており、オーラルフレイルは30歳くらいから始まっているというデータもある。また、ろうそくの火が消せないといった口腔機能の発達しない子どもたちもあり危惧している。今年度も口腔育成をテーマとした食育研修会等を開催する。

・災害に備えた食育の推進について、ローリングストックや備蓄食品を利用したレシピなど支援できるような体制が整いつつあるため、活用してほしい。災害時の食事というところからも食の重要性が伝えられると考え活動している。

・朝食を欠食する県民を減らすためには、学校内で朝食の子ども食堂をすることができればすべての子ども達を支えることができると思った。また、成長期を支える学校給食は非常に大切なものだと感じており、可能であれば長期休みにも給食の導入などがあれば助かるのではないか。こどもの成長のため、大人が一生懸命こどものことを考え、子どもたちを支えていけるとよい。

・家庭との連携が重要。時短レシピを紹介したり、保護者の話を聞いたり、声をかけたりしながら、ともに進めていけるように心がけている。家族みんなで食事をとるためには、働き方の改革も進めていかないとと思った。

・「いただきます」「ごちそうさま」と多くの命をいただくことや感謝の気持ちを持つことが重要であり、幼児期にしっかりと心の教育を、食を通して行っていくことを重点にしている。

・生産者と消費者との交流により、生産者が抱える悩みや苦勞を知り、地産地消の大事さ、食べ方を伝えていくことを活動の中で具体化して取組んでいく。

・情報が溢れている中、県の計画や取組みについては信頼度がある。県の取組みをお知らせするなどそういった役割をこれからも果たしていける。

・有機産物を給食に活用することや、自分たちが作ったものを給食に使っていただけるとよい。また、産地表示をすることも大切なことだと思う。

・店舗の提供と食品ロスに繋がるような食品の提供の2つを中心に自治体に協力することができる。一般の消費者とイベントをつなぐことを進めている。

・FC岐阜のサッカーイベントで食育のトークショーを実施。イベントを通じて食の大切さを知ってもらうことは非常によいこと。県からも後押ししてもらえるとよい。

・要望に応じて、子ども食堂や高齢者施設に食材をお渡しするという活動を実施しており、食に関する協力をしていきたい。

・国産の物や地産地消も選ばなければ衰退していつてしまう。国産のものを消費することは農業を支えているという意識転換をしていかないと地産地消は続いていかない。生産者

代表として啓発活動を進めていきたい。

- ・生産段階としてこれからの生産基盤を守って行くために活動していきたいと思う。
- ・自然環境が変わり、食材が入荷されないことなどを子どもたちに伝えている。地場産物のよさや地域の方に食を支えていただいているということを伝え、子どもたちが社会課題などを知ることで教科の学習にも役立つため、教科の先生と連携していきたい。
- ・学校や地域の要請に応じて、菓子づくり教室を開催し、食品の楽しさを伝えている。そういったことが食育に繋がっていく。地域の団体の要望があれば積極的に参加していくため、申し込みをしていただきたい。
- ・市場祭りや農業祭りを通じて、地道に地産地消促進に取り組を進めていただければと思っている。
- ・地域の郷土料理や行事食、伝統食の普及について、QRコードを活用し、まずは知ってもらうこと、見ていただき、興味を持っていただきたいと思っている。
- ・岐阜の味伝承名人の認定事業では、認定した名人約40名により、小学生に対しコンクールや講習会などできないかということを計画している。
- ・災害の炊き出しについて、外国人にも対応することも必要であり、ビーガンの勉強を進めていかなければならないと思う。